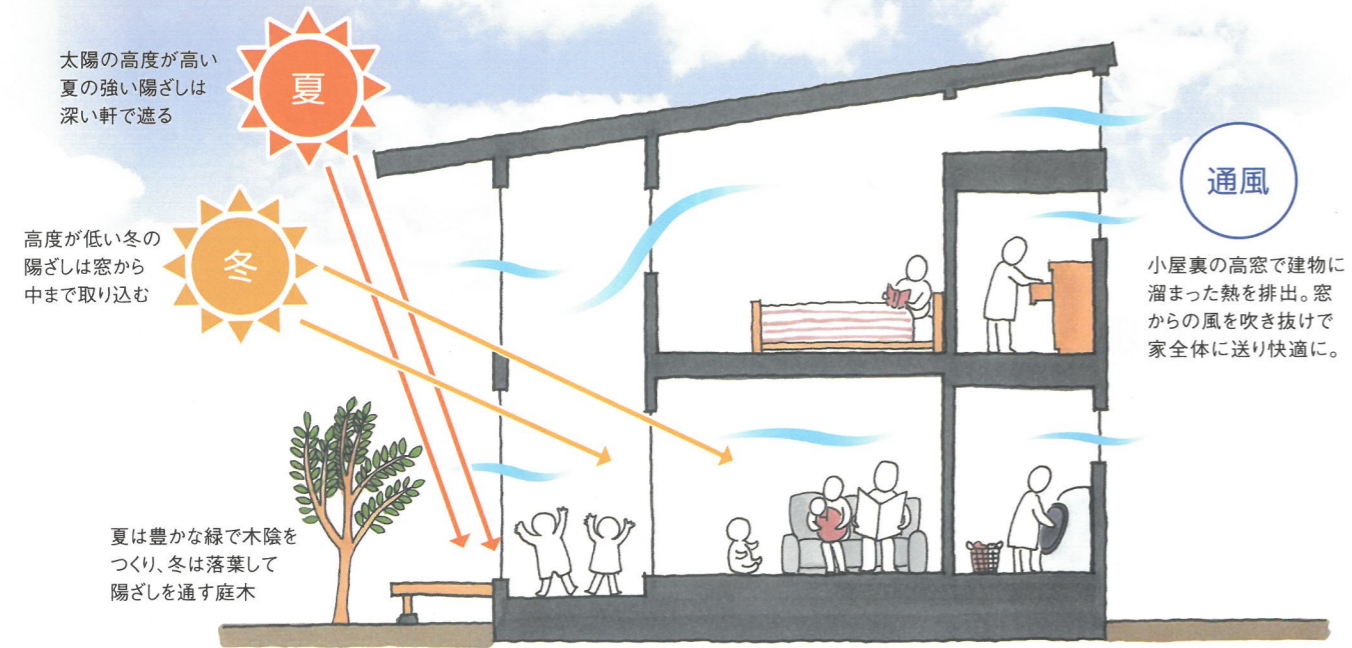


# 自然のエネルギーで快適に暮らす

## 太陽や風などの力を活用する「パッシブデザイン」

今注目の設計手法「パッシブデザイン」。「パッシブ」とは「受け身の」という意味であり、「アクティブ」の対義語です。ここで言うアクティブとは、エアコンをフル稼働させて、室内の温度上昇に対抗する「積極的にエネルギーを使う対策」などを意味します。その反対の「パッシブデザイン」では、太陽の光や熱、風など「自然のエネルギー」をうまく活用することで、夏は涼しく、冬は温かく、1年中快適に過ごせるように設計されています。自然素材の長所を活かし、気候風土に合った日本の伝統的な家づくりに、「機械や電気に頼りすぎることなく、爽やかに暮らしたい」そんな思いをプラスした「パッシブデザインの家」は現代の暮らしをより快適にしてくれます。



## 快適な住環境を生み出す5つの要素

- 1 断熱
- 2 日射遮蔽
- 3 通風
- 4 昼光利用
- 5 日射熱利用

新商品

雨楽な家 爽  
URAC MODERN:SOU

パッシブデザインの5つの要素である「断熱」「日射遮蔽」「通風」「昼光利用」「日射熱利用」を取り入れて設計された新商品「雨楽な家・爽」。断熱材にこだわり、深い軒や大きな窓、吹き抜けの土間が快適な住環境を生み出します。



### コンセプトプラン

#### リビング&ダイニング

家族がいつも一緒にいられるワンルーム。機能的な家事導線を工夫しました。

#### デッキ

日向ぼっこや夕涼み。深い軒は物干しやサービスヤードにも便利です。

#### 土間

大きな窓から冬にはあたたかい陽ざし、夏にはすずしい風を取り込む、開放的な吹抜けスペース。

#### フリースペース

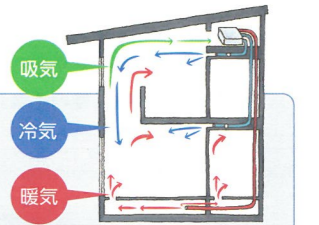
家族の成長に合わせて間取りを変えられる可変空間です。

#### ロフト

ロフトに設置した高窓が屋内に溜まった熱を排出します。スペースは収納あるいはパッシブエアコンの設備室として活用します。

#### ●パッシブエアコンをロフトにプラス!

ロフトにパッシブエアコンを設置すると、1台で冬は床下から暖気を、夏は天井から冷気を家全体に送ることができます。建築と空調設備を一体計画することで、屋内全体の温熱環境を年中快適に維持できます。



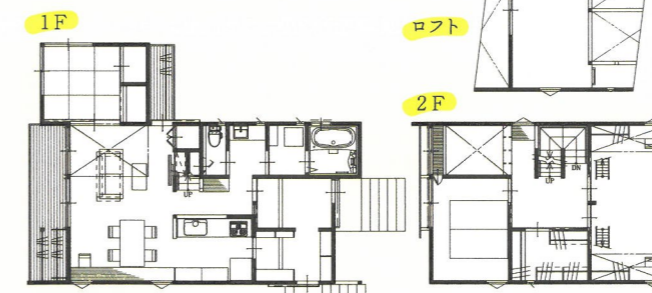
## 伝統的な深い軒と土間、吹き抜けがある心地よい暮らし

日本の住宅様式「数寄屋造り」の特徴のひとつである「深い軒」は家の外観に豊かな表情をつくり、内部空間に深い陰翳(いんえい)と静謐(せいひつ)をもたらします。土間は昔の民家では、床を張らずに土足のまま調理や農作業ができる場として、欠かせないものでした。京都の町家などに見られる、表口から裏口へ通り抜ける長い土間「通り庭」では吹き抜けがよく用いられています。

パッシブデザインの家ではそれらを組み合わせて、南側に深い軒と大きな窓の吹き抜け、土間をつくります。深い軒は夏場の太陽の高度が高い強い陽ざしを遮り、冬場の低い陽ざしは室内まで届けます。土間のコンクリートは冬場は蓄熱材となり、昼間の日射熱を溜め込みます。夏場は玄関からの風を冷やし、家の中に運んでくれます。そして、大きな窓の吹き抜けは冬場は屋内に入る日射量を増やし、空気の循環器となって冬の暖かい空気、夏の涼しい風を家全体に運んでくれます。日本の伝統的な住宅様式を上手に取り入れることで、現代の住環境をより快適にしてくれるのです。

## 今月の「雨楽な家」 愛知県・T様邸

### こだわりのキッチンと土間収納、わくわくするロフト。子どもと暮らしを楽しむ家。



横に広い土間には、キッチンからも出入りできるパントリーを設けて買い物帰りにもスムーズ。こだわりのキッチンを抜けると開放感のある吹き抜けのリビング。個室にもなる和室も落ち着きます。2階には寝室とロフトが楽しい子ども室。吹き抜け側の広いホールには読書コーナーも設けました。洗濯物をたっぷり干せる1階に2箇所設けたバルコニーや、2階の布団干し用のパーも子育て家族にはとても便利です。

